

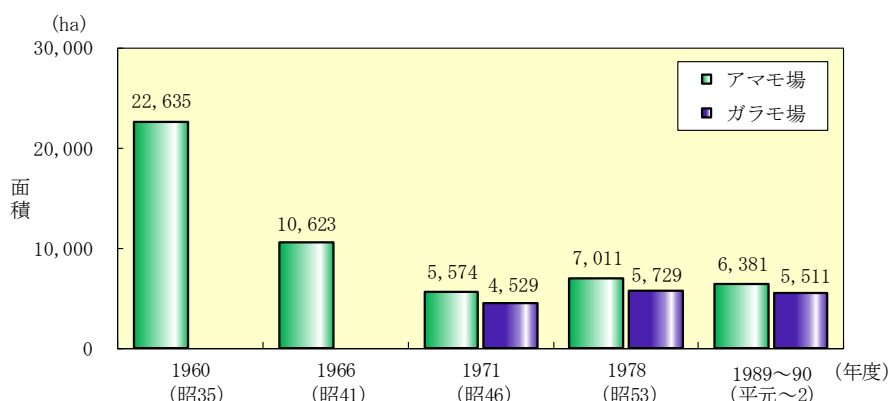
# 1 瀬戸内海の概況

## (3) 瀬戸内海の沿岸域(藻場、干潟等)

### 1) 藻場、干潟

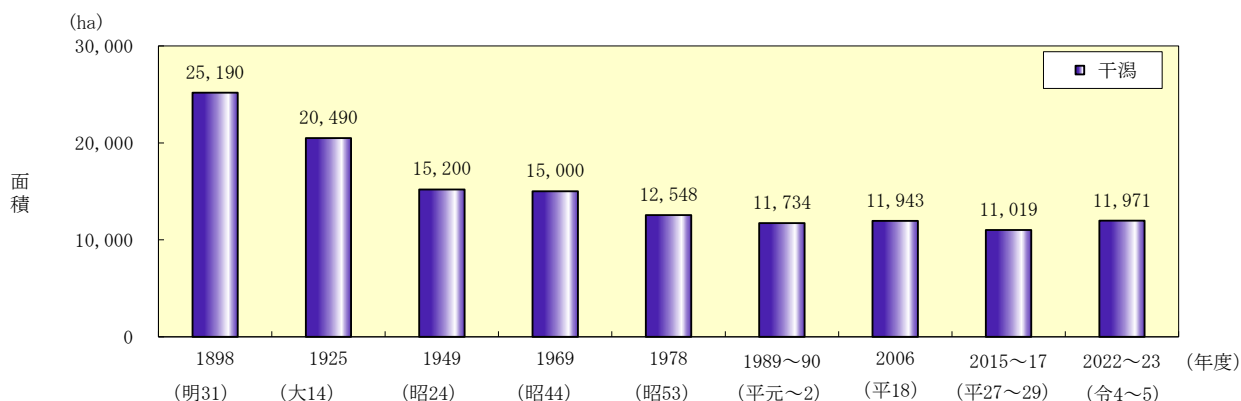
魚介類の生育の場として重要である藻場、生態系の維持あるいは水質浄化に重要な役割を担う干潟は減少傾向にある。それぞれの面積の推移を図1-8、図1-9に瀬戸内海における藻場、干潟の現状を表1-12に示す。

瀬戸内海の沿岸域においては、多様な生物の生息や繁殖の場である藻場・干潟が多く失われてきている。藻場のうちアマモ場については、1960年度(昭和35年度)から1989～90年度(平成元～2年度)までに約7割、干潟については、1898年度(明治31年度)から2015～2017年度(平成27～29年度)までに約5割が消失したことが報告されている。なお、2022～2023年度(令和4～5年度)は2015～2017年度(平成27～29年度)よりも面積が増加した要因として、出水や風浪の影響により面積が変動すると思われるが、詳細な理由は不明であるとされている。



注) 1. 湾・灘の区分は各調査に準ずる。  
 2. 1978年度の(第2回自然環境保全基礎調査)の値は、1989～90年度(第4回自然環境保全基礎調査)の面積に消滅面積を加算した値である。  
 出典: 1960、1966、1971年度: 水産庁南西海区水産研究所調査  
 1989～1990年度(第4回): 「自然環境保全基礎調査」(環境庁)

図1-8 瀬戸内海における藻場面積の推移(響灘を除く)



注) 1. 湾・灘の区分は各調査に準ずる。  
 2. 出典により、面積測定方法に違いがある。  
 3. 1978年度(第2回自然環境保全基礎調査)の値は、1989～90年度(第4回自然環境保全基礎調査)の面積に消滅面積を加算した値である。  
 出典: 1898、1925、1949、1969年度: 「瀬戸内海要覧」(建設省中国地方建設局)  
 1978年度(第2回)、1989～1990年度(第4回): 「自然環境保全基礎調査」(環境庁)  
 2006年度: 「瀬戸内海干潟実態調査報告書」(環境省、平成19年3月)  
 2015～2017年度: 瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査(環境省)  
 2022～2023年度: 瀬戸内海における藻場・干潟の分布状況調査(環境省)

図1-9 瀬戸内海における干潟面積の推移(響灘を除く)